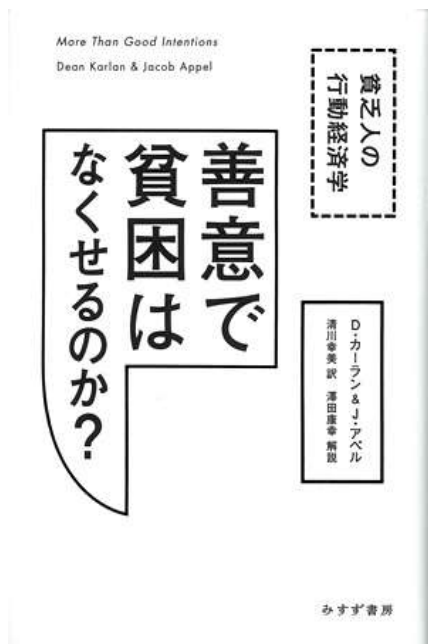


・2013 年度後期

D カーラン&J・アペル

『善意で貧困はなくせるのか?』みすず書房、2013 年。



第 1 章	はじめに	僧侶と魚
第 2 章	貧困と闘う	何をどうするのか
第 3 章	買う	セーフティーネットがある世帯を倍に増やす
第 4 章	お金を借りる	タクシーの運転手はどうしてローンを借りなかったか
第 5 章	幸せを求める	もっと楽しいことがある
第 6 章	力を合わせる	集団の欠点はどうする?
第 7 章	貯める	楽しくない選択肢
第 8 章	耕す	ゼロから何かを作り出す
第 9 章	学ぶ	大事なことは学校に来させること
第 10 章	健康を保つ	足の骨から寄生虫まで
第 11 章	男と女のこと	裸の真実
第 12 章	寄付をする	結論

後期に本書を選んだ理由は、理論や様々な分野が総括的に取り上げられていた前期の教科書とは違い、よりミクロの視点で貧困者の生活が書かれているからである。

また「行動経済学」の要素も含まれているため、理論だけでは実証しがたい貧困者の行動の意図などを知ることができる。

外から広く問題を見る「鳥の目」ではなく、中に入りより貧困者に近い立場に立って考える「虫の目」を持つという意図から本書を推薦した。

室井ゼミは教科書を読むだけでなく、自分たちが意見を考え発表する時間が必ずあるため、人に伝える力や考える力、また人を惹きつけるプレゼンテーション力などが磨かれる。また毎回のゼミを進める座長陣やチーム分けが 2、3、4 年生で構成されているため、同期だけではなく縦の関係も深くなり、様々な人の意見を吸収できるところが室井ゼミの良いところである。